

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

平井興産株式会社 殿

2025年 4月 1日

平井興産株式会社

能美営業所

広島県江田島市能美町高田2-1-12

TEL: (0823)45-2196

FAX: (0823)45-2146

配合計画者名 平井 徹



工 事 名 称			
所 在 地			
納 入 予 定 時 期	9月1日～6月30日標準配合、7月1日～8月31日夏期配合		
本 配 合 の 適 用 期 間	(標準配合)		
コンクリートの打込み箇所			

配 合 の 設 計 条 件

呼び方 <small>(必須事項)</small>	コンクリートの種類	呼び強度	スラッグ又はスラッグ ^{ロー} cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
	セメントの種類	呼び方欄に記載 使用材料欄に記載	24	12	20
骨材の種類	骨材のアルカリシリカ反応性による区分 舗装コンクリートの強度試験方法	使用材料欄に記載		粗骨材の最大寸法 アルカリシリカ反応抑制対策 の方法	B B
指 定 事 項 <small>(任意)</small>	水の種類	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量 コンクリートの温度	— kg/m ³ — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は 水結合材比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	使用材料及び配合表欄に記載	0.30 kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の上限	— kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	— 日	— %	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m ³
空気量	— %	— %	流動化後のスランプ又は スランプフロアの増大量	— cm	

使 用 材 料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社	密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq %	—	
混和材	製品名	種類	密度 g/cm ³	—	Na ₂ Oeq %	—	
骨 材	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粗粒率 又は 実積率	密度 g/cm ³	微粒分量 の範囲%
			区分	試験方法			
			A 化学法				
① 砂	—	下関市蓋井島東方沖合産 海砂	5mm以下	—	2.68	—	2.54
②	—	—	—	—	—	—	—
③	—	—	—	—	—	—	—
① 碎石	—	呉市広町蜘蛛取迫	20～5	—	6.60	—	2.65
②	—	—	—	—	—	—	0.5±0.5
③	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	ホゾリスNo. 70	種 類	A E 減水剤標準形 I 種		Na ₂ Oeq %	0.02
混和剤②	—	—	—	—		—	—
細骨材の塩化物量①	0.020	%	水の種類	地下水		目標スラッグ ^{ロー} 固形分率	—
回収骨材の使用量	—	%	細骨材	—		スラッグ ^{ロー} 水の使用方法	—

配 合 表

セメント		水		細骨材①		細骨材②		細骨材③		粗骨材①		粗骨材②		粗骨材③		混和剤①		混和剤②	
335	—	174	—	689	—	—	1060	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.84	—	—
水セメント比		52.0 %		水結合材比		— %		— %		細骨材率		— %		— %		40.4 %		— %	

備 考

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更。
 夏期 7月1日～8月31日 +1.4倍
 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。

レディーミクスコンクリート配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号		呼び強度	スランブ [°] 又はスランブ [°] プロ [°] cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号	
	普通	V					
変動係数	当工場の実績により						
割増係数	α	$\alpha = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.220$					9.0 % $\alpha = 1.220$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.220 \times 24 = 29.3$					29.3 N/mm ²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -10.08 + 20.79 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{20.79}{29.3 + 10.08} \times 100 = 52.0$					52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により					
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{174}{52.0} \times 100 = 335$					335 kg/m ³
空気量	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 335 \div 3.04 = 110$					110 Q/m ³
骨材の絶対容積	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$					45 Q/m ³
細骨材率	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (174 + 110 + 45) = 671$					671 Q/m ³
単位細骨材量	Sv	当工場の実績により					
	S	$Sv = Va \times s/a(\%) = 671 \times 40.4(\%) = 271$ $S = Sv \times \text{密度}(2.54) = 689$					271 Q/m ³ 689 kg/m ³
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 671 - 271 = 400$					400 Q/m ³
	G	$G = Gv \times \text{密度}(2.65) = 1060$					1060 kg/m ³
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 335 \times 0.25(\%) = 84$					84 kg/m ³

配合表

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
335	—	174	689	—	—	1060	—	—	0.84	—
水セメント比		52.0 %	水結合材比		— %	細骨材率		40.4 %		

備考